

臨床研究へのご協力をお願い

東京医科大学循環器内科学分野では、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の承認のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように患者さんのプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に検体やカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

[研究課題名]

動脈硬化性病変における血管平滑筋の形質転換の検討

[研究の背景と目的]

動脈硬化を背景に持つ脳心血管疾患は近年増加傾向であり、日本人の主要死亡原因の一つです。動脈硬化性病変は慢性炎症を基盤として長い年月をかけて進行し、特に血管の主要な構成要素である平滑筋細胞において、形質転換やアポトーシスをはじめとする細胞死が認められます。私たちの先行研究から、動脈硬化性疾患を有する患者さんの血中で、血管平滑筋細胞の形質転換と細胞死に関連する分子が増加することが明らかになりました。しかしながら、これらのバイオマーカー候補分子が病変部位からどのように血中に放出されかの仕組みはわかっておらず、またこれらの分子の血中濃度と疾患の進行との関連も検討されていません。本研究の目的は、既に病理解剖にて採取された冠動脈と大動脈の組織学的検討を行うことで、動脈硬化性疾患の進行の程度と、バイオマーカー候補分子の疾患組織での発現強度や局在との関連を明らかにすることです。

[研究の方法]

●対象となる方

東京医科大学病院において2018年1月から2020年12月までに病理解剖された40代から80代までの患者さんを対象としています。患者さんから採取され、東京医科大学人体病理学分野で保管されている既存の冠動脈と大動脈組織検体を二次利用させていただきます。

●研究期間

倫理審査承認日から2024年3月31日

●利用する検体やカルテ情報

患者さんから採取された冠動脈と大動脈の切片を使用させていただきます。また、以下の臨床情報を利用します。

・患者情報： 患者の年齢、性別、既往歴、病歴、服薬状況、血液検査データ

- 検体や情報の管理

試料や情報は東京医科大学細胞生理学分野で施設できる書棚に保存し厳重に管理します。研究終了後 5 年は保管し、その後は再生不可能な状態で破棄します。

[研究組織]

研究責任者

東京医科大学病院循環器内科 臨床助教 高橋梨紗

研究分担者及び役割

東京医科大学病院循環器内科・主任教授	近森 大志郎(データ解析)
東京医科大学細胞生理学分野・主任教授	横山 詩子(組織学的評価)
東京医科大学人体病理学分野・主任教授	長尾 俊孝(病理学的評価)
東京医科大学病院循環器内科・教授	富山 博史(データ解析)
東京医科大学人体病理学分野・後期臨床研修医	田崎 晃一郎(病理学的評価)
東京医科大学細胞生理学分野・講師	加藤 優子(標本作製・染色)
東京医科大学人体病理学分野・助手	橋本 賢二(標本作製・染色)
東京医科大学人体病理学分野・助手	山本 善也(標本作製・染色)
東京医科大学細胞生理学分野・助手	澤田 由佳(標本作製・染色)

[個人情報の取扱い]

検体(試料)・情報は、個人情報特定可能な個人識別番号や氏名が削除され、研究用識別番号を付された状態で保存されています。本研究ではこれらの個人情報が削除された検体(試料)・情報を使用します。ご家族より研究不参加の申し出があった場合、細胞生理学分野で検体を再生不可能な状態で破棄致します。

[問い合わせ先]

東京医科大学 循環器内科

臨床助教 電話:03-3342-6111 内線:62083